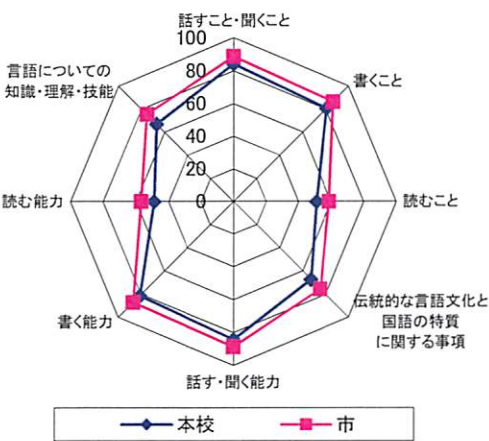


宇都宮市立田原中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	84.2	88.7	89.1
	書くこと	80.6	86.4	64.2
	読むこと	50.9	58.5	55.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	67.2	75.5	72.0
観点別	話す・聞く能力	84.2	88.7	89.1
	書く能力	81.3	87.1	66.7
	読む能力	48.9	56.9	55.0
	言語についての知識・理解・技能	67.1	75.6	71.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

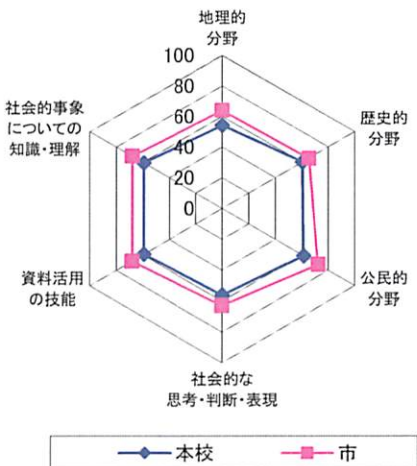
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○平均正答率は市より4.5ポイント下回るが、領域別正答率、観点別正答率は、前年度より、ともに13.2ポイント大きく上回った。 ○「話の内容を正確に聞き取る」では、90%を超える正答率であった。 ○「聞き手に理解してもらうための話し方の工夫を聞き取る」では、市とほぼ同じ正答率となった。 ○「話し方を明確にして自分の根拠を話す」では、市の平均を下回るものの、90%近い正答率であった。	・授業の中で、小集団による話し合い活動を取り入れながら、「自分の考えや意見を述べること」や「相手の話を自分の考えと比較して聞くこと」を意識付けて行っていく。 ・「聞き取りテスト」の実施を今後も継続し、「メモを取り、ポイントを整理しながら聞き取る力」が身に付くよう指導する。 ・授業以外の場面でも、日頃から教師の指示や友達の発表などにしっかり耳を傾けて聞く態度を養っていけるよう促していく。
書くこと	○作文において、「自分の考えを明確に書く」と「自分の考えの理由を書く」は市の平均をやや下回るが、90%、または80%を超える正答率であった。 ●段落構成や指定された文字数には改善点がみられる。	・入試に繋がるように、「指示された条件」を理解し、それに合わせて文章を書く力が身に付くよう、時間を確保して練習していくようにする。自分の意見や考え(主張)を根拠をもって文章化する演習や、添削の学習活動を多く取り入れて力を伸ばしていけるようにする。 ・基本的な型を練習することで、まずは、書くことへの抵抗をとりぞけるようにしていく。
読むこと	○説明文において、「文章の構成や展開をとらえる」では、市の平均を3.8ポイント高く、更には全校平均より6.4ポイント大きく上回った。 ●「全体に即した内容や用紙をとらえる」「文章の表現の仕方をとらえる」や、文学作品の「登場人物の心情・文章の情景描写をとらえる」は、いずれも市の平均をそれぞれ6～12ポイント下回った。	・説明的文章においては、キーワードやキーセンテンスに着目して文章の構成や要点を整理してまとめたり、段落相互の関係を意識して展開を捉えたりする指導に重点を置いて指導していく。 ・読書活動の推進を継続し、読書を通して長文読解に慣れたり、心情の読み取りや場面の展開に即して読み深めたりできる力を高めさせる。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○漢字の『読み』においては、第3学年までに既習した漢字は市の平均と同じ正答率や、90%を超え正答率の結果がみられた。 ●漢字の『書き』においては、小学校で学習した漢字の正答率が全て市の平均より下回った。 ●文法においては、「用言の活用についての理解」が市の平均を15.2ポイント大きく下回った。 ●古典においては、「言語」や「内容をとらえる」が、市の平均を2～15ポイント低い結果であった。	・授業の中で、漢字小テストを継続して実施し、漢字への関心・意欲を高めるとともに、誤答や間違えやすい漢字の反復練習しながら漢字力の向上と定着を図るようにする。 ・古文の言語への抵抗感や苦手意識が強いので、簡単な内容の古典作品に数多く触れさせ、練習問題を解きながら親しみを持って学べるようにしていく。

宇都宮市立田原中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	54.3	64.0	50.9
	歴史的分野	60.4	65.3	57.1
	公民的分野	61.2	72.4	67.0
観点別	社会的な思考・判断・表現	56.0	62.9	52.3
	資料活用 の技能	59.2	68.2	58.1
	社会的事象 についての知識・理解	59.3	68.0	59.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
(社会では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

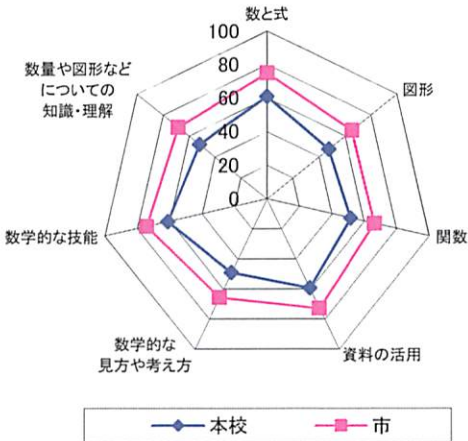
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	○世界地理で、資料から解答する問題では70%を超える正答率だった。 ●北アメリカの工業については正答率が1/3以下で、アメリカの産業への関心の低さが見られる。	・世界地理の分野で、関心が継続して知識が定着するよう復習に重点を置く必要がある。 ・地図を有効に使い、どの地域にどのような特徴があるのかを理解させる必要がある。
歴史的分野	○室町時代の文化や戦国時代の出来事については、市の平均を超える正答率が見られた。 ●奈良時代から鎌倉時代にかけての知識や時代の流れが十分に把握されていない。	・時代ごとに出来事を追っていき、各出来事が次の時代のどのようなことにつながっていくのかを把握させていく必要がある。 ・基礎的な用語を覚えるよう、宿題を出したり、不定期にテストを行い、知識の定着を図る。
公民的分野	○フランス人権宣言や裁判の仕組みについては80%を超える正答率で、人権侵害については関心が高いことが見て取れる。 ●憲法改正や議院内閣制については、20%台の正答率で、政治についての関心の低さが分かった。また、政治用語についても十分に定着していない。	・授業を進めながら、既習事項の復習ができるよう三権の各機能やつながりについて指導していく必要がある。 ・新聞やニュースなどから情報を収集し、現代社会に対しての関心を高める。

宇都宮市立田原中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	61.1	75.0	70.3
	図形	47.4	65.2	63.4
	関数	51.6	66.4	51.5
	資料の活用	59.2	72.8	63.9
観点別	数学的な見方や考え方	48.9	65.5	55.1
	数学的な技能	61.1	74.2	67.5
	数量や図形などについての知識・理解	52.1	68.3	64.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

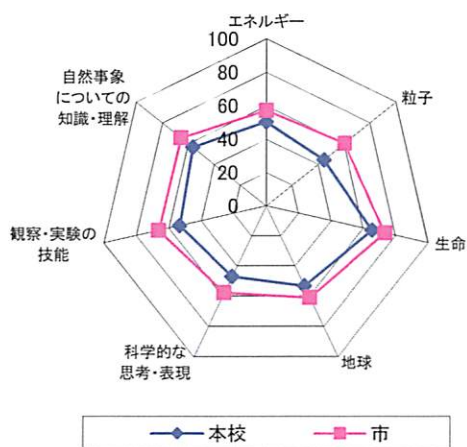
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○方程式・連立方程式では正答率が90%を超えており、宿題や計算練習を行ってきた成果が見られた。 ●平方根では、根号を使って表された数量のイメージがとらえられない等の課題が見られた。また、2次方程式においても平方根の考えを使って解く問題の正答率が低かった。	・宿題や計算練習は今後も継続し、計算力の維持、向上を図って行く。 ・平方根など、新しい数を扱う場面では、数量がイメージできるように丁寧に取り組み、基礎、基本の定着を確実に図っていきたい。
図形	○作図や図形の移動などの問題では、70%の正答率が得られた。授業の中で、時間をかけて取り組ませた成果だと思われる。 ●図形の証明では、「仮定と結論」等の基本的な内容から、理解不足が見られた。	・操作活動を伴う場面では、今後も充分な時間をかけて丁寧に取り組ませていく。 ・図形の証明では、導入場面で興味関心を高められる課題を準備し、意欲を喚起したい。更に問題練習を繰り返すことで、基礎、基本の定着を図りたい。また、多様な考え方が引き出せるよう、話し合う場面を積極的に取り入れていきたい。
関数	○与えられた条件から比例の式を求める問題では、正答率が8割を超えた。 ●示された問題が正しくないことをグラフを根拠に説明する問題では、正答率が3割と低く、課題が見られた。	・関数では、表とグラフと式の関係をつかむことができず、苦手意識を持つ生徒が多い。実生活に絡めた興味の持てる課題を用意し、時間をかけて取り組ませることで、理解を深めさせたい。 ・グループ学習を積極的に取り入れ、グラフから読み取れることを話し合わせたり、新しい問題を作ったりする活動を通して、関数の理解を深めさせたい。
資料の活用	○確率の基本問題では正答率が8割を超えた。 ●度数分布表から階級の相対度数を求める問題では市の平均を大きく下回っており、課題が見られた。	・興味のある資料を用意し、その特性を読み取ったり、活用したりする活動を通して、技能や考え方を育てていきたい。 ・割合を求めたり、活用したりすることに苦手意識を持つ生徒が多く見られるため、小学校の学習内容を含め、丁寧な指導を心がけたい。

宇都宮市立田原中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	50.5	57.5	51.6
	粒子	44.4	60.3	53.0
	生命	65.6	73.4	67.9
	地球	53.3	60.9	57.4
観点別	科学的な思考・表現	47.0	57.7	51.5
	観察・実験の技能	53.4	66.2	58.2
	自然事象についての知識・理解	56.7	65.7	61.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

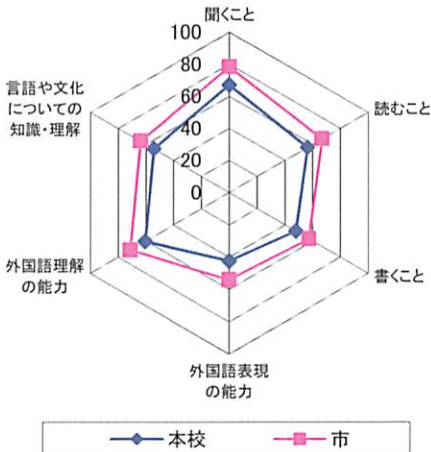
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	○「光の性質」についての校内正答率は85. 1%で、市の正答率より10. 8ポイント高い。 ●「仕事とエネルギー」についての校内正答率は67. 8%で、市の正答率より4. 4ポイント低い。	・理解度を高めるために、体験を伴う活動を増やしたり、動画を用いて解説するなど、わかりやすい授業づくりを工夫したい。また、例題演習を通じて、問題を解く力も身につけられるように工夫していきたい。
粒子	●「物質の成り立ち」についての校内正答率は59. 8%で、市の正答率より4. 6ポイント低い。	・原子と分子の観点で考察をすることで理解を深めることが必要である。原子モデルや分子モデルを使って、構造をイメージできるようにつなげたい。
生命	●「遺伝の規則性と遺伝子」についての校内正答率は77. 0%で、市の正答率より2. 1ポイント低い。	・学習傾向が知識のみに偏る傾向があるため、問題についての考察を行う力が必要である。遺伝の学習では、生殖細胞が作られるときの減数分裂や分離の法則などについて、図やモデルを有効活用してイメージを持たせる工夫をしていく。
地球	●「大気中の水蒸気の変化」についての校内正答率は33. 3%で、市の正答率より5. 2ポイント低い。	・低気圧の問題は正答率が下がる分野でもあるが、よく学習できている。 ・日頃から天気についての関心を持ち、問題に取り組むことが必要である。

宇都宮市立田原中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	67.1	78.4	72.9
	読むこと	56.1	66.9	63.2
	書くこと	47.7	57.5	58.4
観点別	外国語表現の能力	42.4	54.0	51.1
	外国語理解の能力	60.6	71.3	65.9
	言語や文化についての知識・理解	54.4	64.0	68.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○英文に適する絵を選ぶ問題は3問中2問が95ポイントを上回っていた。特に、未来のできごとに関する問題では、市の正答率を0.4ポイント上回っていた。 ●対話の内容を聞き取り、資料をもとに英語で答える問題では、正答率が31.1ポイントと市の正答率を大きく下回っていた。	・教科書のリスニングの他、本文をリスニング問題として聞かせたり、音読指導において英語らしい発音を意識させたりして、聞くことや発音することに慣れさせていく。 ・英語を聞き取って答えを選ぶ問題は比較的できているが、答えの英文を書いて答える力が不足している。メモを取り、丁寧に回答を考えることができるよう指導していく。
読むこと	○ある程度の長さの英文の内容をふまえて感想文を書く問題では、正答率30.5ポイントと県の正答率を4.6ポイント上回っていた。また、指示語が指す内容を答える問題は78.9ポイントと高い正答率であった。 ●英語の対話文と地図から、適切な場所を選ぶ問題では、正答率56.8ポイントと市の正答率72.6を大きく下回っていた。	・教科書本文の読み取りの中で、指示語に関しては毎回触れ、意識させることができた。今後も続けていきたい。 ・読解の授業では、英文を全て日本語に訳すことにこだわらず、生徒に読み取らせ、どんな内容なのか、全体を理解する力をつけさせたい。
書くこと	○自分が好きなことについて、3文以上のまとまった内容で説明する文を書く問題では、正答率63.7ポイントと県の正答率を3.8ポイント上回っていた。 ○単語を正しく書く問題では、正答率が7割を超えていた。 ●場面に応じて疑問詞を使った英文を書く問題では、正答率18.9ポイントと低かった。	・3文以上の自由英作文については、授業始めの帯活動として行っており、少しずつ文が書けるようになってきている。今後も早いうちから英作文に慣れさせ、苦手意識を持たせないよう指導していきたい。 ・新出単語は練習を宿題として出してきたが、定期的に単語テストをするなどして忘れないよう工夫していきたい。

宇都宮市立田原中学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
授業における「本時のねらい」の提示	どの授業も、授業の始めに「本時のねらい」を必ず提示(板書)して、生徒一人ひとりにその時間に学ぶ(身につける)ことを明らかにした上で授業を進めている。提示の仕方・説明・タイミングは各教科の工夫にゆだねている。	質問紙の中で取組と関わる内容の質問は見あたらなかったが、更なる徹底を目指したい。
授業における「ふり返り」の充実	どの授業も、授業の最後に「本時のねらい」に関する「ふり返り」を必ず行い、その授業で学んだ(身につけた)ことを確認させる時間を取っている。ふり返りの仕方(板書・ワークシート等)は各教科の工夫にゆだねている。	質問紙の中で取組と関わる内容の質問は見あたなかったが、更なる徹底を目指したい。
「小集団による話し合い活動」の積極的導入	小集団による話し合い活動を通して言語活動をより充実させるようにしている。生徒が目的意識を持って主体的に活動するような協働的な授業を目指して、各教科で様々な形態のグループ活動を研究している。	「グループなどの話し合いに自分から進んで参加しているか」の質問に肯定的に回答した生徒の割合は77.8%で、昨年度と比較しても3.3ポイント上回っている。さらに積極的に導入していきたい。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

本校では二年間にわたり学力向上専門員を招き、言語能力を高めることから学力を向上させようと定期的に研修会を開き研究を深めてきた。研究の重点として「小集団での話し合い活動」をあげて取り組み、それなりの成果をあげてきたことから次年度もその方向で各先生方の授業力を向上させていきたいと考えている。

各調査結果のデータからもグループなどの話し合いに積極的に取り組んでいこうとする生徒の姿が見られるので、常に「主体的・対話的で深い学び」を意識しながら、さらに校内研修などで全体の意識を高め、全体の取り組みの重点として取り組んでいきたい。